



子ども達の未来のために、地域に根ざす支援の現場！

速報！

政府（内閣府）広報において放映決定

内閣府からご依頼をいただき、7月に当法人の子どもの居場所づくり事業についてテレビ朝日映像株式会社に取材いただきました。

その様子が政府（内閣府）広報番組としてこの度放映されます。

今回の取材ではタレントのつるの剛士さんが富田地区に来られ地域に根ざす支援の現場として行政、大学、学校、企業、民間の方々の連携による子どもたちの包括支援をテーマに取材いただきました。みなさまぜひご覧ください。

【子どもたちの未来のために～地域に根ざす支援の現場～】

○テレビ朝日（地上波） 9月18日（土） 午前11時～

○BS朝日 9月19日（日） 午後1時～

* テレビ朝日（地上波）は東京キー局のみの放映となります。BS朝日は全国放映となります。

つるの剛士さんが富田地区に

政府(内閣府)広報番組「子どもたちの未来のために」 ～地域に根ざす支援の現場～

多セクター協働による包括支援



内閣府からご依頼をいただき、7月に当法人の子どもの居場所づくり事業の一つである「学習支援事業わんぴーす」および「フードパントリー」等についてテレビ朝日映像株式会社に取材いただきました。その様子が内閣府特番としてこの度、放映されます。

取材では、タレントのつるの剛士さんが富田地区に来られ、地域に根ざす支援の現場として行政、大学、学校、企業、民間の方々の連携による子どもたちの包括支援をテーマに取材いただきました。みなさまぜひご覧ください。

子どもたちの未来のために

コロナ禍で孤立が進む今。子どもたちの暮らしと学びを支える草の根活動が全国に広がっていると言います。そこで、つるの剛士がその支援の現場を訪ねます。

東京都豊島区『いけいけ子ども食堂』の活動と人々の想いを取材。また、板橋区『地域リビング プラスワン』で行われている、『おうちごはん』という取り組み。さらに「学び」に対する活動について探るため、大阪府高槻市富田町の『コミュニティスペース NikoNiko』へ。子どもたちを支える活動を通し、日本の未来を見つめます。

(番組公式ホームページより)

子どもたちの
未来のために
～地域に根ざす支援の現場～

つるの剛士さんによる取材の様子



○放送後 Tverでも配信予定です <https://tver.jp/>

○テレビ朝日のホームページ https://www.tv-asahi.co.jp/kodomo_mirai/

01 内閣府「子供・若者白書」にご掲載いただきました。

「子ども・若者育成支援推進法」に基づく年次報告書として、毎年、発行されている「子供・若者白書(旧青少年白書)」が公表されました。白書では本年4月6日に策定された「若者育成推進大綱」に沿って施策を掲載。

あわせて、基本施策に関連する民間・自治体等の特徴的な11事例を「column」(コラム)として紹介いただいておりますが、その一つとして当法人の「新型コロナ禍における緊急支援」の取り組み「食・学び・制度への伴走支援」が紹介されました。



(子供・若者白書第3章第1節)

02 コミュニティ再生プロジェクト 2年目が始動



地域・家庭・学校・行政・大学・企業等の多セクターの共創によって社会課題の解決を行う仕組み「コミュニティ再生プロジェクト」の2か年目を6月24日(木)に発足しました。会議は、事務所、コミュニティスペース Niko Niko と各メンバーをオンライン(ZOOM)でつないでのハイブリット開催。

志水宏吉(大阪大学教授)プロジェクト座長はじめ、大学の研究者や院生、学生、地元小中学校関係者、地域関係団体、企業関係者ら総勢40名を超える規模となりました。

全国の支援の フロントランナーを目指す

今年度からこれまでの富田エリアにおける「コミュニティスペースプロジェクト」「教育コミュニティプロジェクト」に加え、高槻市域全域を対象とした「多セクター共創による市域広域ネットワーク構築」に向け、新規2事業に着手することを提案。

これまで中学校(第四中学校区)において支援のひな型を創ることを法人として目指してきましたが、その実績を踏まえ市域広域事業へと大きなチャレンジに踏み出します。

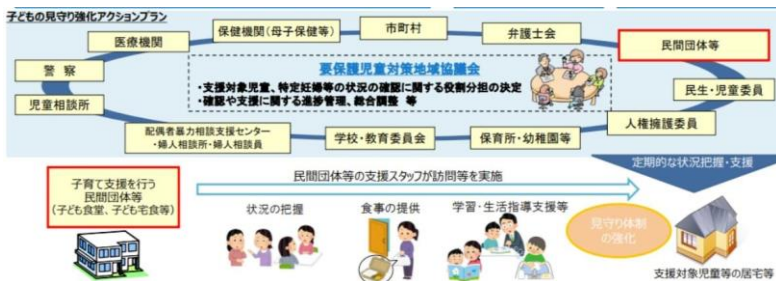


居場所の包括連携による 全国のモデル地域づくり

これまで中学校区を対象に行ってきた支援のひな型・ノウハウを市域広域に広げています。そのために「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業(市委託事業)」「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国子ども食堂支援センター)」を新たにスタートしています。

03 高槻市子どもみまもり つながり訪問事業を実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもの見守り機会が減少し、児童虐待のリスクが高まっていることから、地域の目が行き届きにくい未就園児等がいる家庭を訪問するなどし、状況の把握や子育てに関する相談、子育て支援サービスの情報提供等、家庭での養育支援を行い、子どもの見守り体制の強化を図ることを目的に高槻市が実施する「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」を受託いたしました。



長年の経験やノウハウの継承



実施にあたり市内の保育所の元所長や副所長、長年市民活動や子育て支援に携わってこられた方々9名をメンターにお迎え。また、市内において保育士をはじめ様々な子育て支援をされている子育て層30名を加え総勢約40名の方々が参画いただいています。

専門性の研修

実施にあたっては「高槻市の子育て支援」「子ども理解・親理解」「傾聴」「絵本を通して」「いろんな背景に思いをさせて」などの7回の訪問員研修と実際に訪問員として携わっていただく方々を対象に2回の実務者研修の計9回を対面、オンラインのハイブリッド形式で実施。

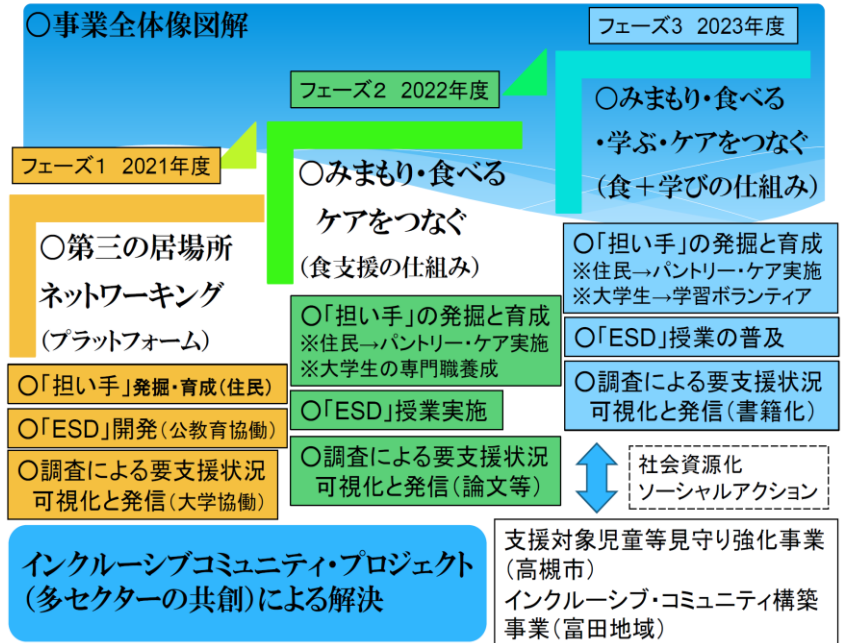
8月より高槻市内250件のご家庭の訪問を順次スタートしています。



04 居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)

もう一つの事業は、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ(代表 湯浅誠さん)が休眠預金の通常枠事業として募集した「居場所の包括連携によるモデル地域づくり・全国」。

この事業では高槻市域を対象に、「つながる・食べる・学ぶ・生活を支える」をキーワードに①第三の居場所のネットワーク、②フードパントリー、③学習支援、④大学、元保育所 OG 等と連携した専門職・担い手の育成を行うことで高槻市域に民と民、官と民の連携による面(セーフティネット)を構築することを目的に実施しています。



○イベント情報！ 「地域から広がる第三の居場所シンポジウム」開催

【日時】10月30日(土)13時～14時45分

① 講演会:13時～14時

講師:湯浅誠さん

(全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長)

② シンポジウム:14時～14時45分

高槻市内子ども食堂団体シンポジウム

【対象】 子ども食堂・第3の居場所などに興味がある方

【定員】対面とオンライン(ZOOM)の併用で実施します。

・対面(高槻市立現代劇場 402号室) 先着 100名

・オンライン(ZOOM) 先着 100名

【申込先】市民公益活動サポートセンター

☎072-668-1781

・申込期間 10月3日～10月22日

・申込方法 電話・直接



※今後の感染状況によっては事業の内容を変更・中止する場合があります。

05 「Takatsuki Art Challenge 展」@安満遺跡公園



障がい者の文化芸術活動の推進を目的に高槻市在住の作家による個性豊かな作品を紹介するアート展が7月1日～4日に安満遺跡公園内で開催されました。

主催は高槻市でボーダレスアート教室「わんだーぼっくす」受講生からも中園晋さん・村濱正博さん2名8作品が出展されました。新型コロナ禍で周知が直前となり、また梅雨の雨模様の中でしたが780人もの市民のみなさまにご来場いただきました。ありがとうございました。

06 コミュニティスペース Niko Niko 本格始動

みなさまの多大なご支援により民家を改装し生まれた「コミュニティスペース Niko Niko」。

5月から事業を開始し、学習支援わんぴーすの居場所、高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業の訪問員研修の場、近隣の大学や学校等からの視察の受け入れ場所・・・と多様な事業の拠点として本格始動しております。今後、この場を拠点に子どもから高齢者まで多様な方々の交流の場として展開していきます。



07 多セクターとの共創の活動に対し 大阪大学大学院「独創的教育研究活動賞」を受賞

昨年に続き多セクターとの共創による「コミュニティ再生事業」の取り組みが大阪大学国際共創大学院による「独創的教育研究活動賞」(「多セクターの共創による社会的不利を抱える家庭の要支援状況の可視化によるソーシャルアクション-大阪府高槻市における多文化共生コミュニティづくりにおける実践と研究の往還-)を受賞しました。

今後、ここで得られるノウハウや知見を論文(書籍)を通じて発信し、他地域の課題解決の一助にも活かします。



(編集後記)

コミュニティスペースが本格始動しました。みなさまから頂いた多大なご支援やご期待に応えるべく、高槻市域の広域事業等の拠点としても市内の多様な家庭の支援につないでいきます。改めてご支援に感謝申し上げます。